

「政黨が団結の器として君主の統治を輔助するにあたるが、その統治がじつにそれが階級と勤労大衆との義務を遂にスムーズに実現するに成功するのである。最も重要な點は確実なための一貫性である。誤りを率直に認め、その理由を確かめ、いつのまにか条件を分析し、何を是正するか徹底的に論議する。」これが公の政治の精神である。階級、たゞ大衆を教育し鼓舞するが目的である。

卷之三

卷之三

「お前が何を知っている。お前、おのれの結婚もいつぞや連れて帰る」が、黒川が人民の連隊へ此一奉仕隊の連隊であつたのか？

別し、処理したことなかった。六十年代後半以降、國民の意識は人民大部の本質を正して、國民の進歩と連れて、血のが武器そのものであり、武器そのものであって、階級矛盾と階級統一の問題を正して処理しなければならなかった。しかし、この困難の事業、先端を出しても、結成されたのが通日赤軍であり、「左」の相手を匪友と認めていた「匪軍」「团结のための組織」とは異謂し、人民の武器を握りかね、これまでの進むべき道を大胆に改進して行った。しかし、敵の死のもの狂ひの彈圧とのし人間との絆を阻むれじよじよした。敵味方の矛盾と人民内部の矛盾を正して区別し、処理していく上に、連日赤軍の軍大の誤りを犯した。——（註）一日も早い回収を終らなければいかぬ。

刀工 30円

東京都新宿区新宿二丁目一七六
大阪市北区大通筋奥田ビル吉田町
03-3525-8767
06-3121-7177
326-4F五
もつぶる社
振替(東京)1329172
連絡先
日本赤色救援会

卷之三

長崎の通事船が、外洋に出て、日本に近づくと、その船の上に、日本語を書いた旗を立てる。これが、日本に近づくことを示すものである。

れ。余は「此の説は、實に甚だ危險である」と考へて、其の後も彼の説を支持する者は少く、彼の説は失敗したのである。しかし、彼の説は、當時の知識の進歩を示すものであつた。彼の説は、當時の知識の進歩を示すものであつた。

ヤホウ。地雷原の事。口論の事。モルガウの事。

33・31、錦織が毎万文、若狭の口利きは、十日ばかりの間の連語の持集助が、三ヶ月で終った。

十二年の禁錮に手屈せらず今尚獄中で画工続けてこの
城崎同志からのによる

城崎同志からのお手紙

「本日はペロコのコレハ世の通算二十二回目の土
ニエリ長崎居留地発送の事にて、是をもつて二十二回目
アラシ一也、自の運営にて、此の二物、一日四
枚の国紙に載」十一月、米軍のものと
「」
日本十口ヒナ苗十語以上、アラシハ和紙にて、日本製
ヒルニゴ。ハナヒテ、其の餘の書類も同様のものと
考へ

十四枚譜題。我が國の歴史と正統の上に亘る

の搾取^{シナギ}の手^{ハンド}の金^{マネー}を^{モード}起^スす。搾取^{シナギ}ハ

カツラガニヤマコトハシテヒトスルノミツツクニシテ

である。特に「M作戦」は、プロレタリア階級的主義の宣傳

革命戦争の不吉な一部である。我々は革命戦争

の莫大な費用の負担は、人の権利侵害であり、抑止者

卷之三

鑑定書(2002年1月22日)の抄文

「ほんとうに小川の匂いがする。」**アリス** 作詞

此處之水皆為山中之水，其味甘濃，無有他物。惟有此水，則人無病矣。

法行之。之以用兵，則無敵矣。

皆社經臣心全爆破未遂事

全の兄弟、友人諸君、

心判日程表(4/3現在)

(回)	(被相手)	(△相手)	(△相手)	(△相手)	(△相手)	(△相手)	(△相手)
4 27 26	4 25	4 25	4 25	4 20	4 19	4 15	4 12
度 刃 正 則 佐 他 一 五 名	松 平 直 彦 他 一 五 名	上 野 木 健 輝 他 一 三 名	松 浦 順 樹 近 藤 宏	玉 振 佐 代 子	新 谷 富 貴 (安 田 A)	上 原 英 勇 勝 酒 井 順 一	高 田 英 也
12 13 18	大 喜 龍	大 喜 龍	米 子 M	M 東 大 (別 決)	M M	監 鑑 總 破 總 破 總	爆 取
13 00	10 00	10 00	16 00	10 00	10 00	13 00	11 00
東 京	東 京	鳥 取	撲 蘭 東 京	東 京	撲 蘭 東 京	東 京	東 京

注) 4/25の新谷同志の才判を除いて、全ては地方才判断です。

卷之三

☆、相田義徳の「山廬の」、白川の「井伊」、高瀬の「高瀬